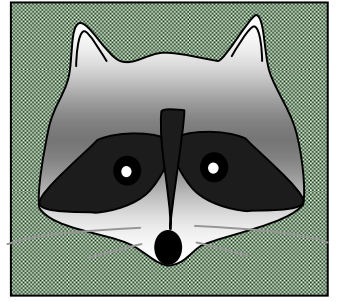


外来生物 アライグマ



アライグマは、北アメリカが原産の中型哺乳類で、アライグマ科の動物です。しかし、日本に昔からいるタヌキ(イヌ科)と外見が似ているため間違えられることが多いです。ここでは、タヌキ・アライグマ・ハクビシン・アナグマの違いを説明しながら、アライグマのことを紹介します。

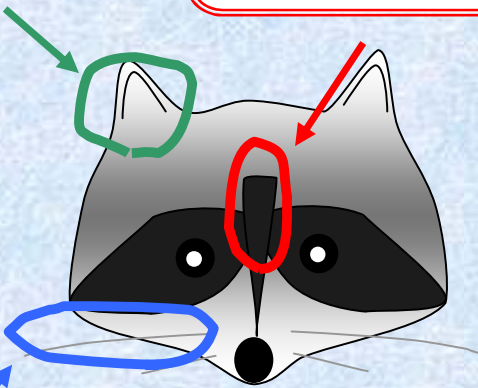
顔

顔の違い

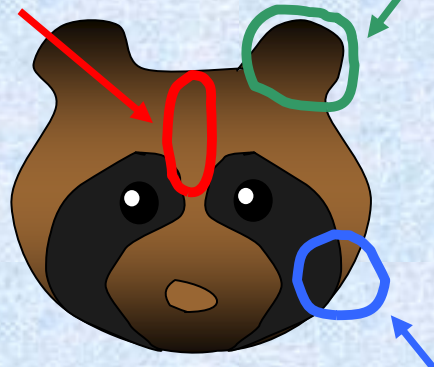
耳は大きく、**白い縁取り**がある。

アライグマには、**眉間に黒い筋**があるが、捕獲ワナ内では、擦り切れて目立たないことがある。タヌキの黒い模様は左右つながっていない。

耳が丸く、**両耳の幅が狭い**



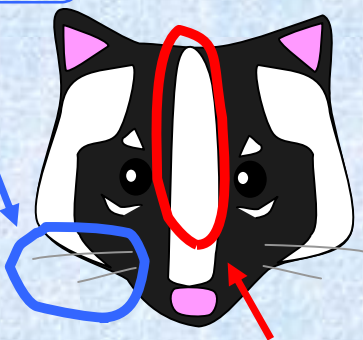
アライグマ



タヌキ

はっきりと目立つ**白いヒゲ**を持つ

黒いヒゲは細く目立たない



ハクビシン

鼻から頭に向けて白い毛があり、目の下や耳の前に**白い斑紋**がある。



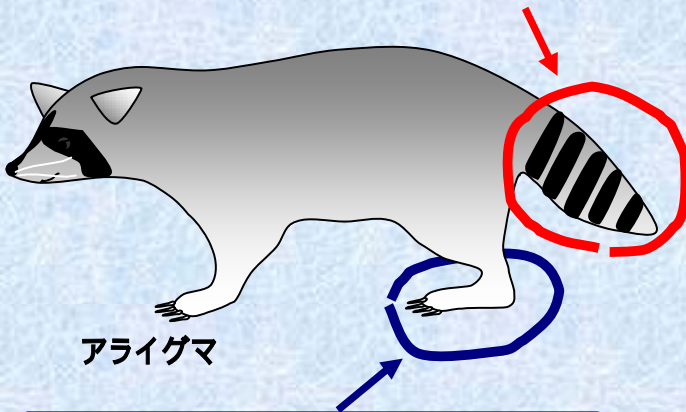
アナグマ

顔の模様は目の周りだけ

体

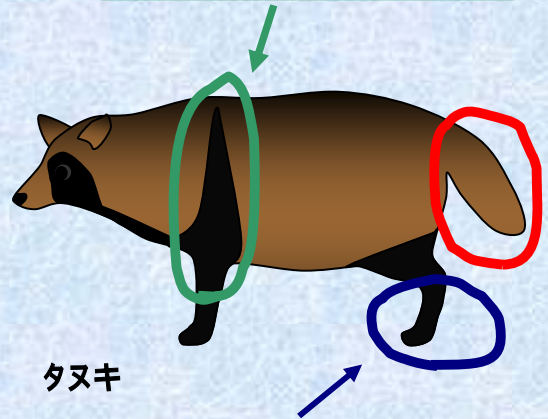
体の違い

アライグマの尻尾は長く、
5～6本の縞模様がある。



アライグマ

タヌキには、胸から背にかけて
黒い帯模様がある。

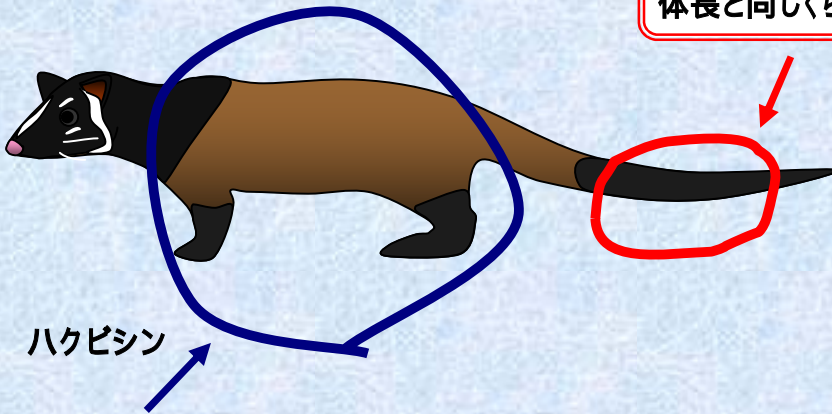


タヌキ

肢はかかとまで地面に付く、蹠行性が
特徴。
人やレッサーパンダ、クマと同じ。
タヌキよりも足は短い。

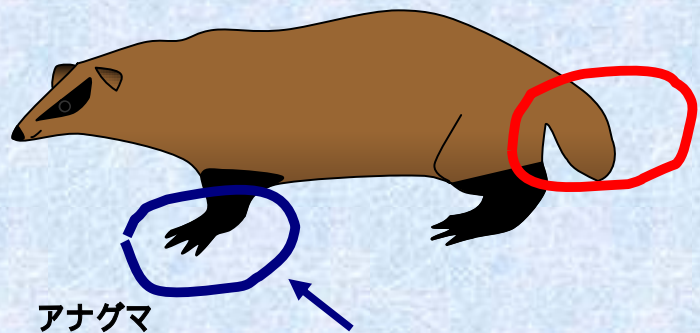
タヌキは、イヌやネコと同じで、
つま先だけが接地する、半蹠行性
足は黒い。

ハクビシンの尻尾は、
体長と同じくらい。



ハクビシン

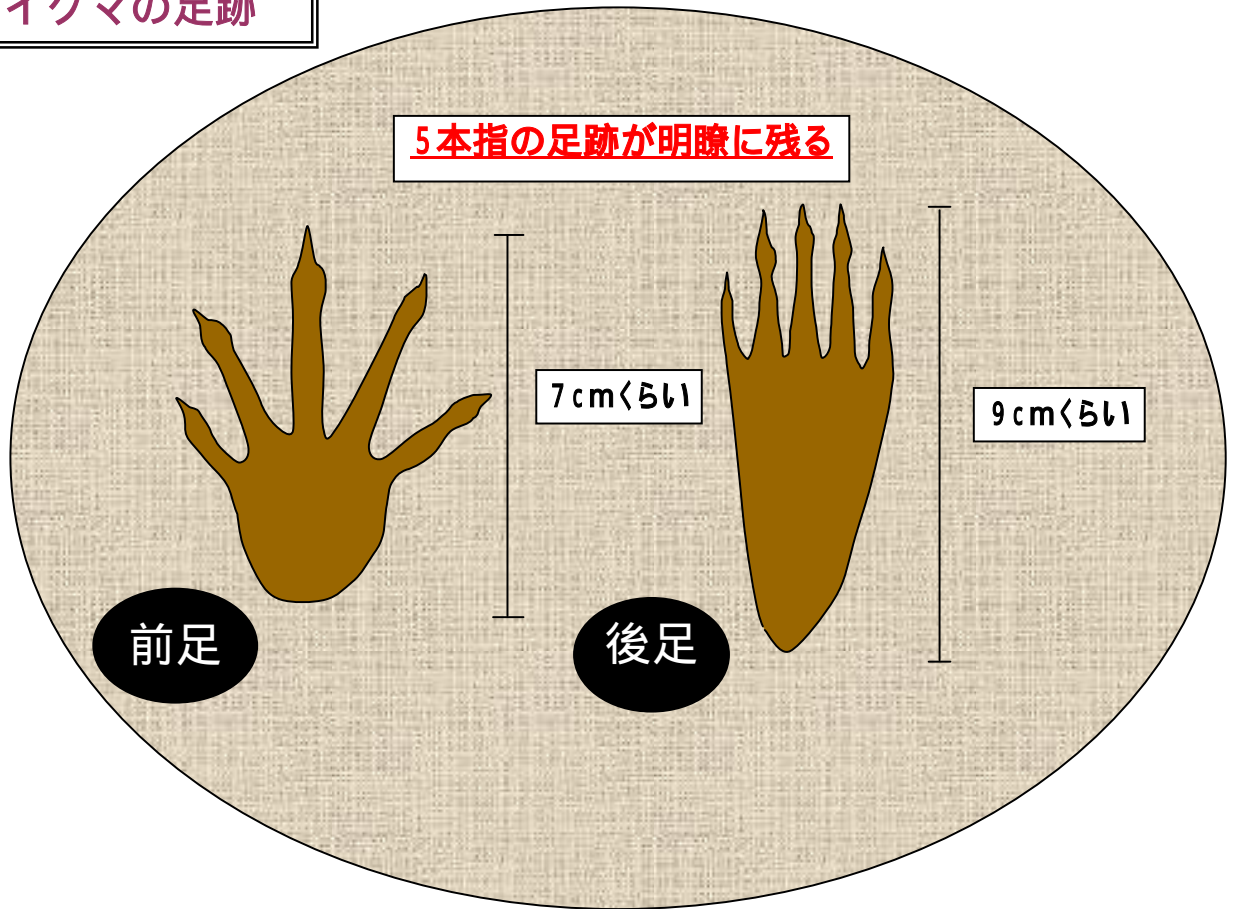
細長い体型で、
末端の色が濃い。
体つきはイタチに似ている。



アナグマ

足は短い

アライグマの足跡



アライグマによる被害

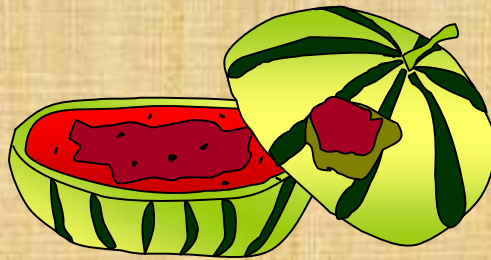
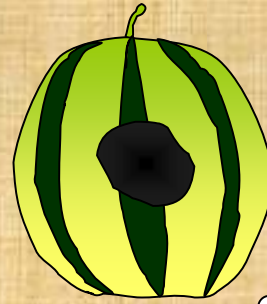
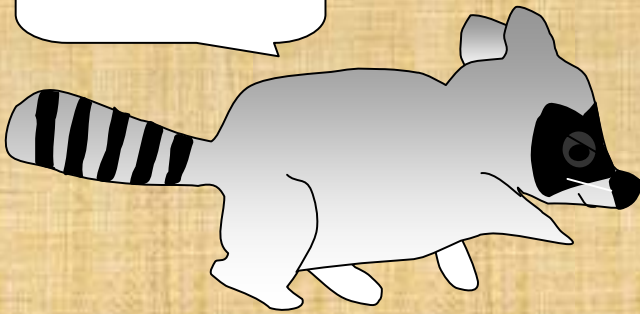
自然生態系への被害

もともと日本に存在しなかったアライグマは、生態系の上位にいます。おまけに、何でも食べる雑食性なので、各地の在来種を食べたり、追い出したりして、地域の生態系に大きな影響を与えています。フクロウの巣や、タヌキのねぐらを乗っ取ったり、在来種のイシガメやクサガメを食べたり、腕を引きちぎるなどの被害もあります。アライグマの胃の中を見ても、カエルや卵、ネズミの足があることも...



農産物への被害

スイカやメロンは、
穴を開けて中に手をつこんで食べる。



中を開いてみると

- ・トウモロコシの皮を剥いで美味しい部分だけ食べたり、乳牛の乳に嘔み付いたりします。
- ・畑だけでなく、野菜の出荷場も狙われます。
- ・畑の周りに電気柵を設置して農作物を守ったり、エサ場を作らないように生ゴミや野菜くずを放置しないようにしましょう。

家屋や文化財への被害

アライグマは、柱や壁を登ったり、狭い隙間を通り抜けるのが得意です。そのため、人家や寺社に忍び込みます。それによって、糞尿の被害、足音や鳴き声の騒音被害、屋根が壊される被害が発生しています。

その他にも、池の鯉が食べられてしまったり、軒下のツバメの巣が荒らされていたり、飼い犬がアライグマに襲われるという被害も発生しています。

